

都内中小企業の事業資金に関する調査

(平成30年5月調査)

《 概要 》

- 主な取引金融機関は、「都市銀行」が56.3%で最も高く、次いで「信用金庫」が31.8%となっており、この2つで9割程度を占める。
- 主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）でみると39.1となった。「緩やか」が「厳しい」を上回る状況が続いているが、前回と比べてDI値は1.5ポイント低下した。
- 主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、「変化なし」が72.6%と7割以上を占めて最も高い。
- 最近の借入金利は、「1%台」が39.6%で最も高く、次いで「2%台」が26.6%、「1%未満」が24.9%となった。「1%未満」、「1%台」、「2%台」をあわせると引き続き9割を超え、金利水準は低めに推移している。
- 今後3か月間の資金需要をDI値（「増加する」－「減少する」）でみると、17.3と前回と比べてほぼ横ばいとなった。
- 金融機関からの借入金総額の状態は、前年同時期と比べて「減少した」が43.9%と最も高く、次いで「変化なし」が39.0%となった。今後1年以内に現在額を上回ることがあるかについては、「ない」が54.1%で過半数を占めた。

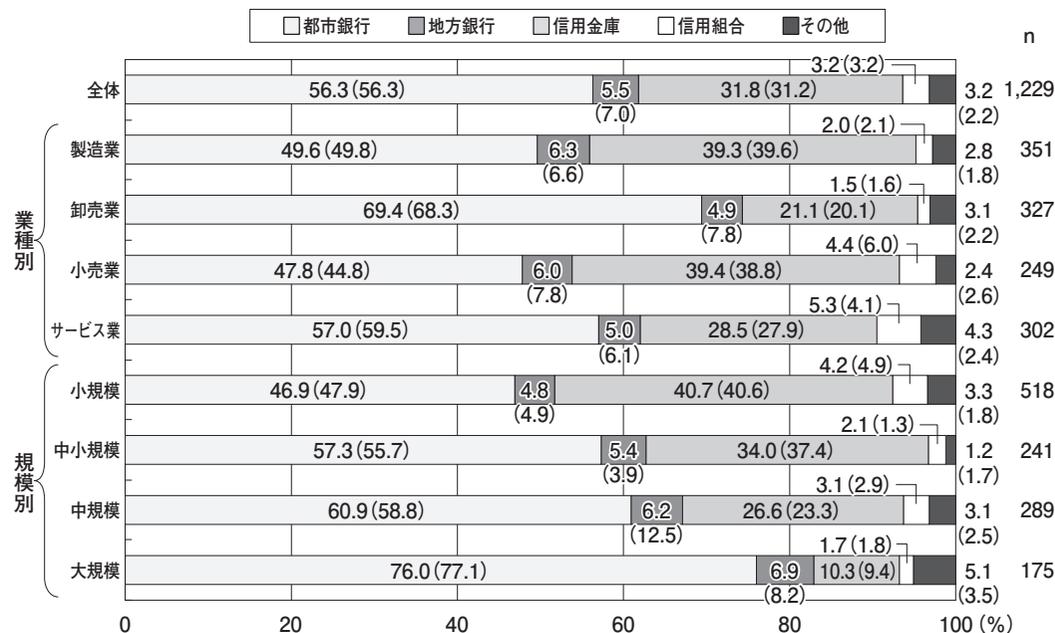
1. 主な取引金融機関

主な取引金融機関は、全体では「都市銀行」が56.3%（前回56.3%）で最も高く、次いで「信用金庫」が31.8%（同31.2%）となっており、この2つで9割程度を占める。このほか、「地方銀行」が5.5%（同7.0%）、「信用組合」が3.2%（同3.2%）となった。

業種別にみると、全業種で「都市銀行」が最も高く、特に卸売業では69.4%と約7割を占めている。一方、製造業と小売業では、第2位の「信用金庫」が約4割を占め、「都市銀行」との差は小さい。

規模別にみると、小規模では「都市銀行」が46.9%、「信用金庫」が40.7%となっている。規模が大きくなるほど「都市銀行」が高く、「信用金庫」が低くなっており、大規模では「都市銀行」が76.0%となっている。

図表1 主な取引金融機関



注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。()内は前回値(平成29年11月調査)。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

2. 借入や返済に対する姿勢

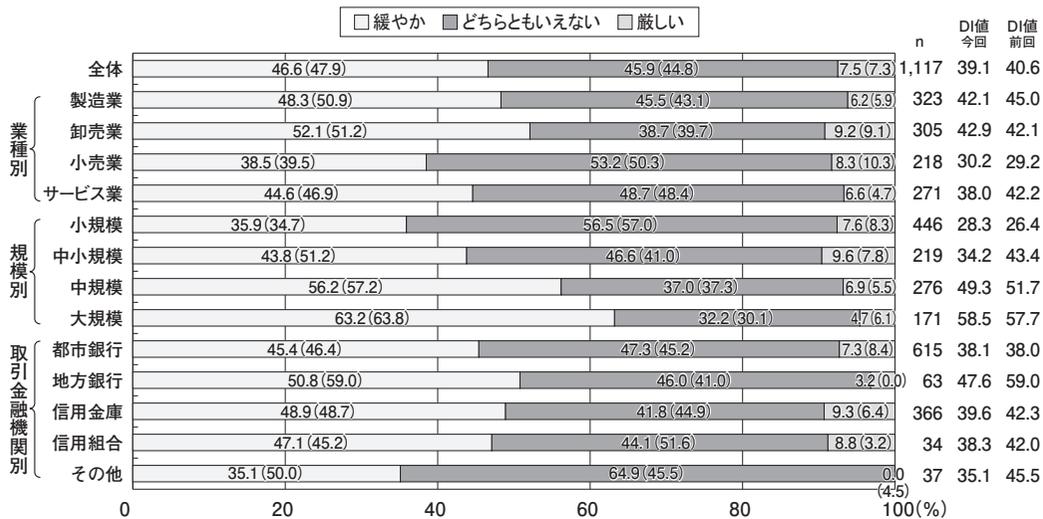
主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）でみると、全体では39.1（前回40.6）となった。「緩やか」が「厳しい」を上回る状況が続いているが、前回と比べてDI値は1.5ポイント低下した。

業種別にみると、卸売業42.9（同42.1）は0.8ポイント、小売業30.2（同29.2）は1.0ポイントとわずかに上昇した。一方、製造業42.1（同45.0）は2.9ポイント、サービス業38.0（同42.2）は4.2ポイントとともに低下した。

規模別にみると、小規模28.3（同26.4）は1.9ポイント、大規模58.5（同57.7）は0.8ポイントとともに上昇した。一方、中小規模34.2（同43.4）は9.2ポイントと大幅に低下、中規模49.3（同51.7）も2.4ポイントとやや低下した。

取引金融機関別にみると、都市銀行を除く取引金融機関でDI値が低下した。特に、地方銀行47.6（同59.0）は11.4ポイントと大幅に低下した。一方、回答企業の取引割合が高い都市銀行38.1（同38.0）はほぼ横ばいとなった。

図表2 取引金融機関の借入や返済に対する姿勢



注) 無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成29年11月調査)。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

3. 主な取引金融機関からの借入金利

(1) 金利傾向

主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、全体では「変化なし」が72.6% (前回74.8%) と7割以上を占めて最も高い。また、「低下」が11.3% (同10.7%) で、「上昇」の4.9% (同4.8%) を上回っている。

図表3 金利傾向



注) 無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成29年11月調査)。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

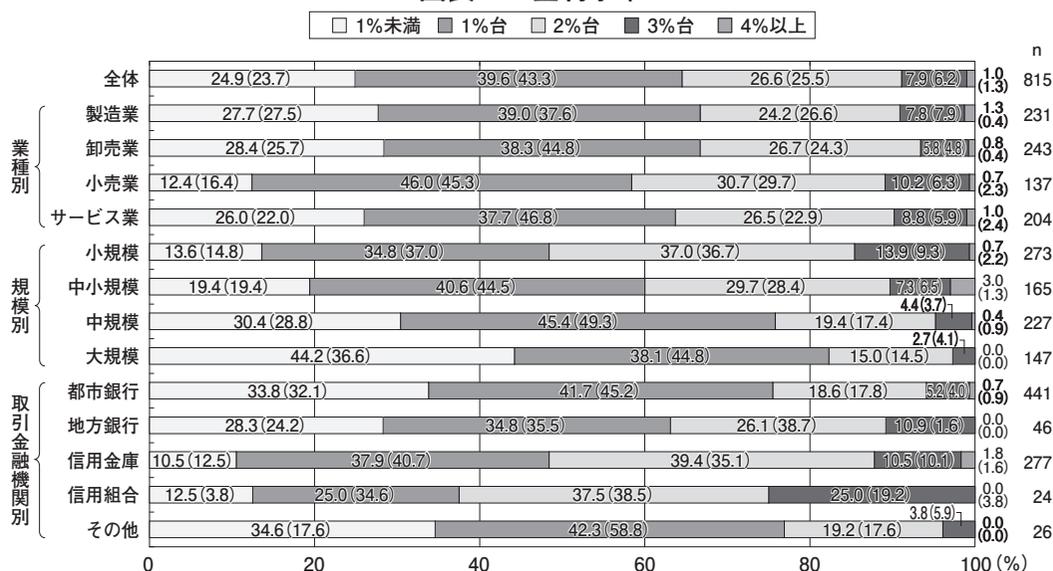
(2) 金利水準

最近の借入金利は「1%台」が39.6% (前回43.3%) と最も高く、次いで「2%台」が26.6% (同25.5%)、「1%未満」が24.9% (同23.7%) となった。「1%未満」、「1%台」、「2%台」をあわせると引き続き9割を超え、金利水準は低めに推移している。

業種別にみると、小売業を除く全ての業種で「1%未満」が2割を超えている。規模別にみると、規模が大きくなるほど金利水準が低くなっており、大規模では「1%未満」が4割を超えている。

取引金融機関別にみると、都市銀行では「1%台」が41.7%で最も高く、「1%未満」とあわせると7割を超えている。

図表4 金利水準



注) 無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成29年11月調査)。3年超5年以内、保証協会の保証付以外。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

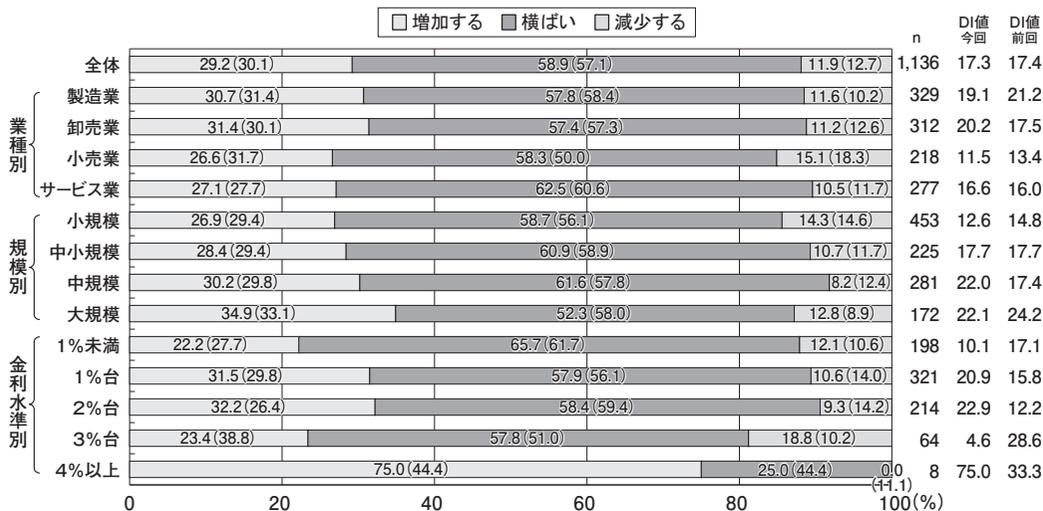
4. 今後3か月間の資金需要

今後3か月間の資金需要をDI値(「増加する」-「減少する」)でみると、全体では17.3(前回17.4)と前回と比べてほぼ横ばいとなった。

業種別にみると、卸売業20.2(同17.5)は2.7ポイント上昇、サービス業16.6(同16.0)は0.6ポイントとわずかに上昇した。

規模別にみると、中規模22.0(同17.4)が4.6ポイントと、前回に引き続き上昇した。

図表5 資金需要（今後3か月間）

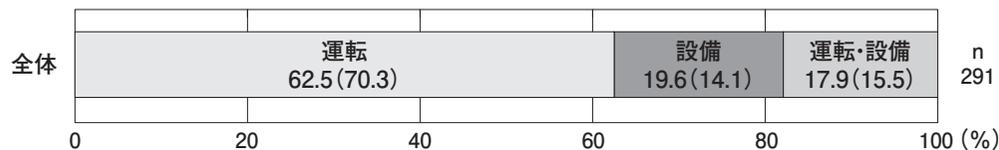


注) 無回答を除き集計。規模・金利水準不明を除く。()内は前回値(平成29年11月調査)。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

(1) 資金使途

資金需要増加分の資金使途をみると、「運転」が62.5%（前回70.3%）と最も高く、次いで「設備」が19.6%（同14.1%）、「運転・設備」が17.9%（同15.5%）となった。前回と比べて「運転」が7.8ポイント減少し、「設備」が5.5ポイント増加した。

図表6 資金使途

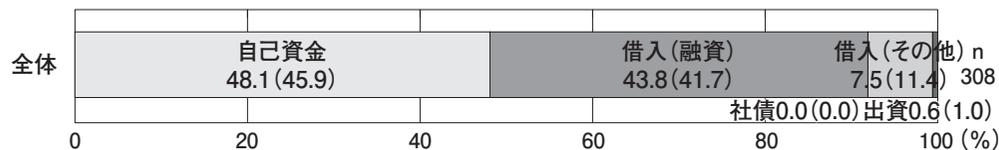


注) 資金需要が増加する企業につき、無回答を除き集計。()内は前回値(平成29年11月調査)。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

(2) 調達手段

資金需要増加分の調達手段をみると、「自己資金」が48.1%（前回45.9%）と最も高く、次いで「借入（融資）」が43.8%（同41.7%）となった。前回と比べて「自己資金」が2.2ポイント、「借入（融資）」が2.1ポイント増加した。

図表7 調達手段



注) 資金需要が増加する企業につき、無回答を除き集計。()内は前回値(平成29年11月調査)。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

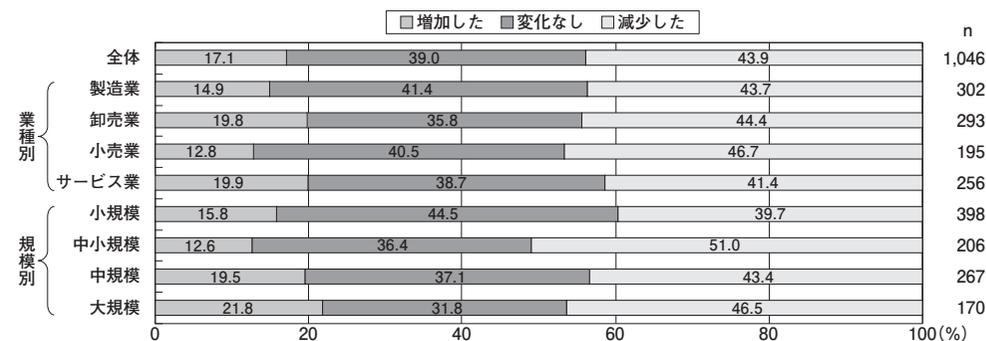
5. 金融機関からの借入金総額の状況

(1) 借入金総額（前年同時期比）

前年同時期と比べた現在の金融機関からの借入金総額の状況は、全体では「減少した」が43.9%と最も高く、次いで「変化なし」が39.0%となった。借入金総額が「増加した」は17.1%と2割未満になっている。

業種別にみると、「増加した」はサービス業で19.9%、卸売業で19.8%とやや高い。規模別にみると、中小規模では「減少した」が51.0%と半数を超えており、他の規模に比べて高くなっている。

図表8 金融機関からの借入金総額（前年同時期比）



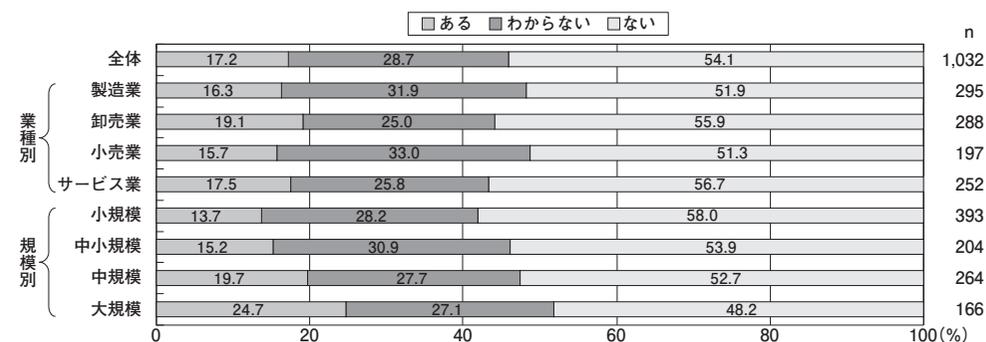
注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

(2) 借入金総額の増加見込み（今後1年内）

今後1年内に金融機関からの借入金総額が現在額を上回ることがあるかについては、「ない」が54.1%で過半数を占めた。一方、「ある」は17.2%となっている。

業種別にみると、全業種で「ない」が過半数を超えた。規模別にみると、大規模では「ある」が24.7%と他の規模より高くなっている。

図表9 借入金総額の増加見込み（今後1年内）



注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。